



1 《SB工業出雲営業所》2025年開設。新築リフォームをはじめ、防水・遮熱・屋根・外壁塗装工事の出雲の拠点 2 《伊藤建設株式会社》2022年に事業承継。土木・建築・内装工事など住宅や店舗リフォームが中心の総合建設業 3 4 《株式会社SB管財》2010年設立。松江市を中心に10棟のテナントビルやアパートを所有する不動産賃貸会社

## 防水塗装から建築事業も 高い技術力で事業拡大

屋根や屋上は、雨風や紫外線の侵入を防ぎ、建物全体を守るという極めて重要な役割を担っている。しかし、これらは常に強い日差しや風雨にさらされるため、建物の中でも最も早く劣化が進む部分の一つだ。防水層が傷むと、そこから水が浸入して内部の木材や鉄骨が腐食し、建物の耐久性が著しく低下するだけでなく、カビや湿気による健康被害につながることもある。そうしたリスクを未然に防ぐために欠かせないのが防水工事である。有限会社SB工業は2000年、蒼座誠社長（53）がわずか一人で立ち上げた。

創業当初は防水工事に特化した小規模な事業だったが、今では塗装、新築、リフォームまでを手がける総合建設グループへと発展を遂げた。成長を支えたのは、徹底した品質へのこだわりと職人たちの高い技術力、そして顧客に対して誠実に向き合う姿勢である。

ブラジルで生まれ育った日系三世の蒼座社長は、19歳のとき祖父の故郷・日本に渡った。各地でさまざまな職を経験したのち、松江のパチンコ店勤務中に防水工事会社の経営者と出会う。現場に同行して作業を手

伝った際、古びた屋根が見違えるように蘇る様子に心を奪われ、自らの手で何かを生み出す仕事の魅力を感じた。その器用な手さばきと責任感の強さが評価され、職人としての道を歩み始めた。現場では一つ一つの作業を妥協せず、仕上がりに納得がいくまで何度でも確認を重ねたという。その信念は今も会社全体に息づき、SB工業の品質の礎となっている。3年後に独立し、SB工業を創業。丁寧でスピーディーな施工は評判を呼び、次第に受注が増加。防水工事後の補修や塗装、構造補強といった付随作業にも対応するため、専門業者に頼らず自社完結型の体制を整えた。2013年からは新築・リフォーム事業を本格化し、現在では住宅、商業施設、公共建築など多様な現場を手がけている。品質の高さは業界内でも評価が高く、地場ゼネコン幹部から自宅工事を依頼されることもある。「適切な材料を選ぶこともできる。」「適切な材料を選ぶ、確かな技術で仕上げる。安くはありませんが、信頼して任せていただけることが何よりの誇りです」と蒼座社長は語る。

施工エリアは倉吉市から浜田市まで広がり、地域密着型企業として確かな地位を築いている。2010年には不動産賃貸会社《SB管財》を設立し、松江市を中心に10棟のテナ

ントビルやアパートを所有。建設・メンテナンス両面のノウハウを生かして入居率90%を維持している。さらに2022年、後継者不足に悩む老舗《伊藤建設株式会社》を事業承継。土木・建築・防水・内装までを網羅する総合建設業として再生させ、住宅や店舗リフォームを中心に新しい顧客層を開拓した。

2025年には要望の高かった出雲市に《SB工業出雲営業所》を開業。地域に根を張るため、土地と建物を自社購入して挑戦に踏み切った。外国人労働者が多い出雲では言葉の壁による住宅トラブルも多いが、ポルトガル語と日本語を自在に操る蒼座社長には多くの相談が寄せられている。

創業以来、コロナ禍で一時的に受注を控えた時期を除き赤字は一度もない。その理由は、どんな現場でも妥協を許さない品質追求の姿勢にある。社内には、級技能士が多数在籍し、蒼座社長自ら遠方の現場にも足を運び、細部まで仕上がりを確認する。「職人に100%はない。満足したら次はない」。その言葉には、腕一本で会社を築き上げた男の信念と誇り、そして仲間を家族のように思う温かな情熱が込められている。地域とともに歩み、次世代へ技術と信頼をつなぐ企業を目指している。

# SBグループ

● 防水・塗装・総合建設業／不動産賃貸業



## 確かな技術と努力で築いた信頼 “品質第一”の成長物語

防水工事から始まり、新築・塗装・不動産賃貸・土木工事へと事業を広げたSBグループ。確かな技術と品質第一の姿勢で、地域に信頼を築いた職人企業の成長物語。





## SBグループ

創 業 平成15 (2003) 年10月  
代表者 代表取締役 蒼座 誠  
社員数 13名 (男12名 女1名)  
本 社 島根県松江市東出雲町揖屋724-9

### 事業内容

外壁塗装、雨漏り修繕、防水、リフォーム、  
新築工事、不動産賃貸、総合建設

### 勤務地(採用エリア)

松江市、出雲市

### 採用区分

新卒採用

キャリア採用

インターンシップ・キャリア

無

### 採用担当者からあなたへ

防水や塗装工事の専門性が高いだけでなく、各種リフォーム対応もできるのが当社の強み。仕事の幅が大きいのでいろいろな業務に挑戦できます。経験がなくてもしっかり研修するので大丈夫。女性も大歓迎です。

取締役管理部長  
長尾 和則さん

採用に関するお問い合わせ先

0852-61-1003

公式サイトは  
こちら



採用サイトは  
こちら



❶ 一級技能士始め、高い技術を持つ若手スタッフが揃うSB工業。社員の仲は良く、隔年で行われる社員旅行が社内のコミュニケーションを一層深める機会になっている ❷ 外壁の防水修理を行う際には、ひび割れやコーキングの劣化など現状を正確に把握し、適切な工法や塗装剤を提案。最適な施工が効果的な防水性能につながっている ❸ 創業時は現場と営業の両方をこなしていた蒼座社長(右)。仕事に対する厳しい姿勢には揺らぎがない

## 一流技術者を養成

### 一流の技術者を養成 資格取得もバックアップ

会社のパンフレットには、一級技能士の肩書を掲げ、真剣な眼差しで並ぶ職人たちの姿がある。  
現場で働く6名全員が国家資格である塗装や防水の一級施工技能士であり、そのうち3名はマネジメント力を備えた登録基幹技能者だ。彼らは現場の最前線で確かな技術と責任感を発揮し、地域の建築品質を支えている。蒼座社長は「資格取得はゴールではなくスタートライン。そこから職人としてどう生きていくかが問われる」と語り、資格の先にある人間的な成長を重視している。社内では資格取得を全面的に支援し、受験費用や講習費は全額会社負担。有資格者によるマンツーマンの実技

指導も行い、社員同士が互いに学び合う風土が根付いている。未経験者にも門戸を開き、入社後3か月間は先輩が現場で丁寧に指導。安全管理から工具の扱い、現場マナーまで基礎から身につけられる環境を整備している。

蒼座社長は「命に代わるものはない」と語り、コロナ禍では社員と家族を守るため受注を縮小。現場を3班に分けて感染対策を徹底し、感染者ゼロで危機を乗り越えた。翌年には業績も回復し、絆はいっそう深まった。「一族経営にするつもりはない。若い職人を後継者として育てたい」と語る。その信念のもと、次世代を担う人材育成に力を注ぎ、職人の誇りと技を未来へとつないでいる。SB工業はこれからも地域に根ざし、確かな技術で信頼を築いていく。

## 住まいを守る一流技術者たち

### 現場での経験を糧に、誠実かつ適切な営業を

「営業職のはずでしたが、初日にスーツを着て以来3年間は作業着で現場に出ました」と苦笑する。職人らの下で防水・塗装の基礎を学ぶとともに、帰社後は見積もりを作成。「業務内容が分かるからこそコスト感覚も身につきました。現場経験のおかげで今、自信を持ってお客様に提案できています」と胸を張る。雨漏りなどの困り事相談が多く、施工後のお客様の笑顔がやりがいにつながっている。

大阪から1ターンして松江の飲食店で勤務。結婚を機に転職を考えていた際、声を掛けてくれた客の一人が社長だった。「他社が好条件を提示する中、社長は『一人前にしてやる』。そこに惹かれました」。現在は主に県西部を担当し、半年間で約3万キロ車を走らせたという。一級建築施工管理技士の資格取得にも挑んでいる。



営業  
山崎 大樹さん(35)  
2018年入社



塗装  
米田 篤史さん(38)  
2006年入社



### 見えないところこそ美しく仕上げる

雨水などの侵入を防ぎ、建物の美観維持にも役立つ防水工事。耐用年数やコスト、現状などによって最適な工法や種類、使う道具なども異なり、型枠大工から転職した米田さんは、「当初は覚えるのに苦労しました」と頭をかく。防水工事では、下地処理や下塗りで手を抜くと、表面のシートがきれいに貼られていても腐食が早く進むことも。「表面は誰でもきれいに仕上げられる。見えないところこそ手を抜かず、美しく仕上げるのが職人としてのプライドです」

現在は塗装班の主任で、一級塗装施工技能士の資格も持つ。「同じ現場は一つとしてなく、段取りや仕上がりに頭を使いますが、細かい所まで気になる性格が今の仕事にマッチしているようです」



防水・塗装  
松尾 歩さん(43)  
2014年入社



### 卓越した技能とアイデアでよりよい暮らしを創造する

高校中退後、初めて3か月以上続いた職場が当社だった。ハングリー精神にあふれた社長に惹かれ、次第に仕事自体にもやりがいを感じるように。「人生をかけて仕事をする彼は、僕が人生で初めて尊敬できた年上の人間」と断言する。

防水施工、塗装の一級技能士を社内で唯一両方保有し、防水登録基幹技能者でもある。マネジメント手腕を発揮して、現場で効率的かつ安全な作業手順・方法を構成する。以前は20キロ以上の塗装剤を階段で持ち上がっていたが近年、ウィンチの活用を提案。「随分楽になりました」と笑う。

現場の多くは人々が日常を送る暮らしの空間。ゆえに気遣いを徹底する。「臭いや音などで住民の方にご負担を掛けがちです。少しでも削減できるよう工夫しています」



伊藤建設  
蒼座 直斗さん(24)  
2022年入社



### 建築は、常に学び続けられる仕事

打ち合わせから見積もり、図面作成、現場監督などまでさまざまな業務に関わる。メインは一般住宅のリフォームが占めるが、店舗や新築物件も経験。「建築は、関わる人のセンスが問われる仕事。職人さんや同僚ら多くの人とともに一つのものを作り上げていく面白さがあります」

高校卒業後、専門学校で建築を学び、実父が経営する会社の関連会社に就職。「先を見据える力があり、常に結果を出してきた人間。尊敬しています」と父について語る。現在は現場で経験を積みつつ、二級建築士の資格を取得した。「日々新しい素材が出てきている上、ネットなどで勉強されているお客様も多く、プロとして常に学びの姿勢が大事だと考えています」